

特集

トップ
インタビュー

活力と幸せが実感できる まちづくりを目指して

今回は龍郷町の竹田泰典町長に、健康に暮らせるまちづくりへのビジョンやご自身の健康法等についてお話を伺った。

**健やかで安心して暮らせる
健康・福祉のまちづくり**

— 龍郷町における健康に暮らせるまちづくりへのビジョンについてお聞かせください

近年、少子高齢化や核家族化の進展、また、社会情勢、コロナ禍で生活様式の変化もあり、人と人とのつながりが希薄化し、家庭や地域での助け合い、支え合う暮らしの環境が変化しています。このような状況の中、地域における福祉ニーズも複雑化・多様化し、制度の狭間で公的福祉サービスだけでは解決が難しいケースも増えており、支援を必要とする人々を地域で見守り支える、仕組みづくり

がますます重要となっているのではないのでしょうか。

本町は、昭和50年2月に龍郷町制を施行し、令和7年2月に町制施行50周年という記念すべき節目を迎えました。町政の基本・原点は、そこに住む人々はもとより、出身者らを含む「すべての龍郷町関係者」シマンチュ」が本町を愛し、共に住みよいまちを創り上げることが最も重要だと考えており、そのような中、「第6次龍郷町総合振興計画」を策定。「歴史と文化で創る 活力と幸せが実感できるまちづくり」の実現に向けて、健康分野の基本目標に「健やかで安心して暮らせる健康・福祉のまちづくり」を掲げ、5つの施策柱として、①地域福祉の推進、②高齢者福祉・介護保険事業の充実、③障害福祉の充実、④子育て支援・児童福祉の充実、⑤保健・医療の充実に取り組んでいます。

TOP
Interview

龍郷町長 竹田 泰典

また、昨年度からは、今後12年間の健康づくり施策の指針となる「第2次健康たつごう21」がスタートしました。本計画では、子どもから高齢者まで、各ライフステージに応じた健康問題を把握し、関係機関との連携を図りながら健康づくり施策に取り組んでいけるよう、「生活習慣病の発症予防に加え、重症化予防も推進」、「高齢化の進行に伴う生活の質（QOL）向上策の一層の推進」及び「社会全体で健康づくりを支援するための環境整備」を勘案して、龍郷町における健康問題を分析し、自助・互助・共助による町民全体で健やかでいきいきと暮らせる町を目指しております。

一人ひとりの健康づくりを支えるために

―力を入れておられる取り組みや、特色のある取り組みについてお聞かせください

生涯にわたり心身ともに健康で幸せに暮らし続けるためには、自分の健康に関心を持ち、自分の健康は自分で守ることが基本となります。日頃から自身の健康管理に気を配り、食

事や運動などの生活習慣の改善と継続が、将来の健康寿命の延伸に最も重要になることから、町民一人ひとりが健康意識を高め自己管理できることが大切です。

本町では健康寿命の延伸に向け、昨年3月に策定した第3期データヘルス計画に基づき、さまざまな生活習慣病の発症予防や重症化予防に取り組んでおります。主な取り組みとして、健康づくりに関する情報発信や普及啓発を行うことは勿論ですが、特定保健指導や糖尿病重症化予防事業等、健診結果やレセプトデータをもとに一人ひとりにあつた生活習慣改善指導の実施や健康づくり活動に對しポイント等を付与しインセンティブを充実させるなどしております。

特に、令和6年度から30代を対象に「若年健診」を実施し、忙しい生活の中でも若い頃からの健康づくりへの意識を高め、年に1回の健康チェックの習慣化を図れるよう取り組んでいます。

また、後期高齢者については、令和2年度より高齢者の保健事業と介護予防等の一体的事業を先行して導入し、健康寿命の延伸とフレイル予防の

ため、長寿健診の推進やハイリスクアプローチの強化、ポピュレーションアプローチとして、通いの場を活用した健康づくりの普及啓発を行っています。

特に、本町では集落での通いの場として、どうくさ会やてくてく体操、楽しく体操などを実施し、運動や外出の機会を増やし、楽しみづくりの充実を図っています。令和4年度からは鹿児島大学にご協力いただき体力測定などの健康チェックを行うなど、経年的な健康状態の見える化と健康づくりへの意欲向上に努めています。

食生活については、第3次龍郷町食育推進計画を柱に生涯を通じた「心身の健康を支える食育の推進」と「食に関する意識や理解を深め、持続可能な食を支える食育の推進」を重点項目として掲げ、各課・各団体と協力し食育に取り組んでいます。主な内容は、各世代に応じた食育として、

プレママパパ教室や離乳食相談、男の料理教室、フレイル予防教室を開催しております。また、地元の食材活用と食文化継承として島料理教室や地場産物を生かした学校給食の提供、島料理レシピの情報発信などを行い、食を通して心身の健康を向上させる

ことを目指して食育推進に努めています。

最後に、健康づくりには、一人ひとりが取り組むことに加え、住民同士が健康づくりへの意識を持ちながら、お互いに支え合って取り組むことも効果的で重要と考えております。

本町にはまだ、助け合いの「結の精神」が残っています。本町では「世話焼きさん（地域福祉推進員）」と呼んでいます。住民主体で通いの場の運営や、見守り活動などを行い、地域の健康づくりや支え合い活動の推進に大きな役割を担っていただいています。集落活動の活性化を図る上でも、地域活動へのインセンティブ（ポイント制度）の付与や八月踊り等伝統文化継承のための公民館講座等、様々な集まりの場を活用して健康づくり講話など行っております。

汗をかき、体を動かすことが大切

―町長ご自身の健康について、普段から心がけていらっしゃるごことがありますでしょうか

私は、自身の健康法について、紹介

するほどのものは持ち合わせていませんが、私の趣味として、小さな畑で野菜を作ったり、花を植えたりして楽しんでいきます。土いじりで汗をかき、体を動かすことが大切なことだと思っていますし、そして作物が成長し、収穫できたときの充実感は何にも代えがたいものです。その収穫されたものを自ら食し、また隣近所にお裾分けをしたりして喜びを分かち合っています。

以前は、仕事が終わると犬の散歩がてら毎日のウォーキングをしていましたが、現在は、思うようになりません。自分の健康に関心を持ち、日頃から自身の健康管理に気を配り、食事や運動などの生活習慣の改善と継続が大事だと思いますので、時間を見つけて取り組んで参りたいと思います。

—最後に何か龍郷町のPRがございましたらお聞かせください

龍郷町は、鹿児島県奄美大島北部に位置し、東シナ海と太平洋の両方の海に面し、中央には山々が連なる地形豊かで自然と歴史、そして伝統文化が息づく町です。奄美空港や奄

美一の繁華街そして海の玄関口、奄美市名瀬へのアクセスが良く、利便性の高い町で観光や移住先としても人氣があります。

本場奄美大島紬の代表的な柄である「龍郷柄」や「秋名バラ」の発祥の地であり、西郷隆盛が奄美大島で3年弱、潜居生活を送り一男一女をもうけた場所としても知られています。

また、リゾート地としても有名で、倉崎海岸でのスキューバダイビングや手広ビーチはサーフィンのメッカとして知られ、「奄美ブルー」と言われる美しい海岸線が広がっています。その他にも、ハートロック（赤尾木東海岸）や「龍の目」が見られるかんばんナトンネルなど、自然が作り出した神秘的なスポットも魅力です。豊作祈願行事で国の重要無形民俗文化財である秋名アラセツ行事（ショチョガマ・平瀬マンカイ）が行われる場所としても知られています。

なお、龍郷町は、2025年2月に町制施行50周年を迎え、本場奄美大島紬や町花の緋寒桜をモチーフとした公式キャラクター「タッピー」が誕生しました。

本町は、特に子育て支援に力を入

れており、龍郷町子ども通院費等助成事業として、島外の医療機関に通院する際の交通費及び宿泊費の一部を助成し、福祉の増進と家庭の負担軽減を図る事業を実施、インフルエンザ予防接種費用の助成、0歳児から2歳児の保育料減免、公立保育所の保護者会費の無償化、保育所生から中学生までの給食費無償化等を実施しました。また、龍進未来塾は、毎週木曜日（第2木曜日を除く）に学習習慣の確立及び学力向上を目指した生徒への受け皿として、公設の無料

学習塾を開設・実施しました。他にも、輝く龍郷つ子事業として、小・中学生の島外への遠征費一部助成、高校生バス通学費助成を行い、経費負担軽減を図る等、様々な手厚い施策を行っています。本町の名誉町民であり、西郷隆盛の息子、菊次郎の半生を描いた中高生による青少年ミュージカル「KIKUJIRO」は本町友好都市、台湾宜蘭市を訪問するなど世界に羽ばたく子ども達の未来を見据えた事業も行っております。



国の重要無形民俗文化財・秋名アラセツ行事「ショチョガマ」



西郷隆盛の息子・菊次郎の半生を描いた青少年ミュージカル「KIKUJIRO」